愛ランド いわて

No.7
1997.12.20

【地域花壇の部】＊最優秀賞＊ 第13区自治会（千厩町）

65th

飛び立とう――あなたとともに

こころが真ん中。

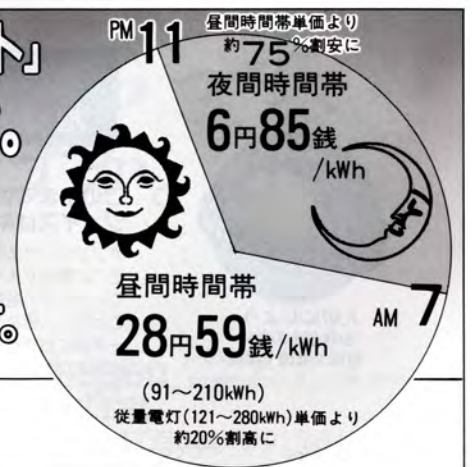
私たちが大切にしようとしているのは心です。
「ほんとうにお客さまのためになることは何か」。
65年目を迎えた今、
私たちはみなさまに選んでいただける銀行を目指して、
さらに努めてまいります。

岩手銀行

特集

まち・むら・地域のおもしろ探検隊

『あれもしなきゃ、これもしなきゃ……』
『あんなこともしたい、こんなこともしたい……』
と思いながら毎日が忙しくすぎていく――。
そんな皆さんにご紹介したい人達がいます。
ここで取り上げるのは
「愛ランドいわて」の編集スタッフが探検隊の気分で集めてきたまち・むら・地域の情報です。

毎日の暮らしと、私たちの住むいわてを見つめ直すきっかけを、いわての自然との関わりのなかで探してみました。
今回は「衣」「食」「住」。
少し、自分を変えられるヒントが見つかるかもしれません。

野山に染めの材料は無限です

“衣(ゆ)いことだから広めたい”

スピンクラフト岩泉

代表　工藤　厚子
連絡先　0194-25-4006

人間の衣生活は、自然の恩恵とは無縁ではない。戦前、羊を飼育し、その羊毛から糸を紡ぐ生活風景は全国各地で見られた。

岩泉町は、昔の生活の知恵や伝統を現代に継承しようと、さまざまなまちおこし事業に取り組んでいる。中でも年齢60～70歳、女性だけの「スピンクラフト岩泉」は、かつて岩泉一帯でも行われていた手紡ぎ毛糸を現代に復活させ、これを広めている15人のメンバーだ。

「スピンクラフト岩泉」の結成は、昭和60年8月。当初から岩手にとことんこだわった素材での特産品開発をこころざし、手入れのいきとどいた小岩井農場の羊毛だけを使用した。染めは、岩泉周辺の山野に自生する植物すべてが材料となる。

切り出された木があれば会員がもらいに出かけ、枝、葉、樹皮などをジックリ煮込む。薬品は決して使わない。

胡桃は樹皮、果皮ともにあざやかな茶色。野ブドウは美しい紫色。背高泡立草はくっきりとした緑色。おがくずも貴重な材料となる。

色は洗うごとに落ちついて色艶をます。しかも草木で染めた衣類は、人間のからだを守ってくれる薬用の効能をもっている。

これを自給自足した時代の手技そのままに、一人一台ずつもっている糸車で、ブーンブーンと紡ぐ。全工程約2カ月、すべてが手作業である。

自然の色100%のため、同じ毛糸は二つと紡ぐことができない。軽くて着心地がよく、着減りしない実用性もかねそなえ、半世紀以上は身につけられる。セーター一着約7万円ほど。

一度着ると実感できる質の高さが、年々固定客の増加につながっている。

「製品といっしょに、昔からの手織りのぬくもりと岩手の大地の豊かさを伝えていきたい」と工藤さん。メンバーのモットーは、「健康と家庭は絶対に譲らないこと」「活動は自宅で家事をしながら」。

そして今年で活動は14年目を迎える。今も毎月2回はメンバーのミーティングを開き、作業中に感じた疑問などを熱心に話し合っている。

エコロジー“食ッ食”（しょっくしょく）

シラカバから飲料ができます

上郷まちづくり研究会
代表 工藤 定見
連絡先 0198-65-2022

まち・むら・地域の
おもしろ探検隊

食

私たちが自給自足の生活をしていたころ、木は大切な生活の糧だった。木を切って家を建て、木を切って道具をつくり、木を燃やして暖をとり、そして木の実を食べ、油や薬をとった。一本の木の芽から根まですべてが人々の生活を支えていた。

遠野市上郷町の「上郷まちづくり研究会」（工藤定見会長、会員15名）。この研究会が最近熱心に取り組んでいるのが、シラカバ樹液の飲料水づくりである。採取をはじめてから今年で3年目。中心になっているのは石田孝夫さん（62才）である。

石田さんは一昨年春、北海道で開催された、国際樹液サミットに参加したが、そこでシラカバ樹液の素晴らしさに出会い、カルチャーショックを受けた。「シラカバから出る樹液が飲める。

ほのかな甘みがあり、すっきりとしている。健康にもいいという。これは遠野でもぜひやってみようと――」

石田さん自身はシラカバに関する知識は全くなかったが、かつて勤務した上郷地区内の大峰鉱山跡地に樹齢約30年のシラカバが百本ほどあるのをすぐに思い出した。

早速、遠野に戻り、試行錯誤をくりかえす。樹液が出るのは、新芽がでる前の四月下旬ごろに限られること、一本の幹に12ミリほどの穴をあけてシーズンに約40ℓの樹液が採れることなどがわかった。採取後に、木の幹には虫などがすみつかないよう、くりぬいた穴を新しい木片で塞いでやると木が修復されることも分かった。採取の時に、幹の穴から樹液をこぼさず集めるために、農機具用の金具も改良した。これには石田さんの鉱山時代の経験が役にたった。

また、戦時中ロシアの収容所で日本兵が、このシラカバ樹液で飢えを癒したという経験者からの話も聞いた。シベリアの氷点下30度にもなる寒さの中での重労働で栄養失調になると、皮膚の毛穴が黒くなったが、春にこの樹液を飲むと、不思議に黒い斑点は消えたことから、シラカバ樹液は「命の水」と言われたという。

シラカバ飲料は、県内では山形村が樹液実用化にとりくんでいる。北海道美深町では民間業者が清涼飲料水として販売を始めた。今、まちづくり研究会では、農協の応援も得ながら、殺菌や加工保存の設備を整備する準備をすすめているところだ。

石田さんらは「これは大切な山からの恵みです。ミネラルを多量に含み、健康増進や病後の滋養にもいい。早くまちおこしにつなげたい」と語る。研究会には、石田さんのように退職後、入会した人や、現職の市会議員、公務員、酒卸業、そして主婦ありと、さまざまなメンバーが顔を揃える。近年は活動の幅を広げ、地域の中学生を広島に派遣し、平和の尊さを学ぶ研修を行うなど、地域を担う人材育成にも熱心に取り組んでいる。

家計簿をもうひとつ――

環境家計簿をつけよう

11月　今月のテーマ　食べもの捨てていませんか？

めあて　食べずに捨てたものがないか、種類ごとに調べ、その理由をチェックしてみましょう。毎日の食事はできるだけ食べ切り、手をつけないまま捨てることのないような食料品の管理をしましょう。

11月　今月のテーマ　再生紙使用とリサイクルは徹底的に

めあて　再生紙を使用しているかどうか、不要になった紙をリサイクルに回しているかどうかを調べてみましょう。資源を有効に使うため、紙はできるだけ再生紙を使用し、古紙のリサイクルを積極的に進めましょう。

1 わが家で使っている紙は…

11月　今月のテーマ　過剰な包装はハッキリ"NO"

めあて　買い物をした回数を毎日チェックし、どのくらいの包装紙をもらってきたか調べましょう。また、不要になった容器類をリサイクルしているかどうかを調べてみましょう。

	月 日	月 日	使用量	日数
電気	kwh	kwh	* 252 kwh	* 28 日
ガス	m³	m³	* 217 m³	* 31 日
水道	m³	m³	* 62 m³	* 60 日
ガソリン	ℓ	ℓ	* 48.6 ℓ	* 30 日

1 買い物に行った回数と、もらった包装材の数をしらべてみましょう。〔毎日のチェック〕

	1日～7日	第1週合計
買い物に行った回数		6 回
もらった包装材 スーパーバッグ		6 枚
包装紙・ブックカバー		1 枚
紙袋（手のないもの）		2 枚
手さげ袋（紙・プラスチック）		1 枚

	8日～14日	第2週合計
買い物に行った回数		8 回
スーパーバッグ		9 枚
包装紙・ブックカバー		枚
紙袋（手のないもの）		枚
手さげ袋（紙・プラスチック）		1 枚

	15日～21日	第3週合計
買い物に行った回数		5 回
スーパーバッグ		6 枚
包装紙・ブックカバー		1 枚
紙袋（手のないもの）		枚
手さげ袋（紙・プラスチック）		枚

	22日～28日	第4週合計
買い物に行った回数		4 回
スーパーバッグ		4 枚
包装紙・ブックカバー		枚
紙袋（手のないもの）		枚
手さげ袋（紙・プラスチック）		枚

	29日～31日	第5週合計
買い物に行った回数		1 回
スーパーバッグ		1 枚
包装紙・ブックカバー		枚
紙袋（手のないもの）		枚
手さげ袋（紙・プラスチック）		枚

合計	
買い物に行った回数	* 24 回
もらった包装材 スーパーバッグ	* 26 枚
包装紙・ブックカバー	* 2 枚
紙袋（手のないもの）	* 2 枚
手さげ袋（紙・プラスチック）	* 2 枚

1　包装材を断わるために、どのようなくふうをしたか書きましょう。

2　包装材を断わることができなかったことがあれば、その理由を書きましょう。

買物の際に家にあるスーパーの袋を持っていこうと思いつつ忘れてしまった。

2 資源ごみのリサイクルについてしらべてみましょう。

種類	発生数	リサイクル数	リサイクル先
①紙パック（裏が銀色のものも含む）	* 46 枚	* 46 枚	子供会の資源回収へ
②紙箱	* 5 枚	* 5 枚	ごみとして捨てた
③トレイ（菓子の中じき等は除く）	* 36 枚	* 36 枚	スーパーの回収ボックスへ
④ペットボトル（底におへそのあるもの）	* 6 本	* 6 本	資源ごみの回収日に出した
⑤回収できるビン（酒屋などが引きとるビン）	* 本	* 本	
⑥その他ガラスビン	* 14 本	* 14 本	子供会の資源回収へ
⑦アルミ缶	* 6 缶	* 6 缶	子供会の資源回収へ
⑧スチール缶	* 25 缶	* 25 缶	子供会の資源回収へ

資源…総数　* 138 点

リサイクル…総数　* 133 点

3 わが家のつめ替え商品の利用についてしらべてみましょう。

■つめ替えで利用しているものを書きましょう。

食料品など	洗剤類その他
だし	・台所用洗剤
	・お風呂の洗剤
	・シャンプー・リンス
	ボディソープ
	ハンドソープ
	柔軟剤・洗濯用洗剤

合計	
食料品など*	1 点
洗剤類その他*	7 点

過剰な包装はハッキリ“NO”

買い物をした回数でどの位包装紙をもらうか、また不要になった容器をリサイクルしているか、調べるページ。買い物にいくたびにかなりの量の包装紙が集まる。ゴミを出さないためにも買い物のときに家から袋をもっていかなければ、と反省する人が多い。

まち・むら・地域のおもしろ探検隊

住

●環境家計簿とは？

暮らしと環境の関わりを、数字としてとらえ、エコライフを実現する目安にしようと日本生活協同組合連合会では「エコライフダイアリー」(生協の環境かけいぼ)を毎年発行している。テーマは毎月ひとつ、12テーマを設定。“台所の排水をできるだけきれいに”“粗大ゴミまだ使えるのでは？”“せんたくは回数と節水に工夫を”など、ごく日常の問題をとりあげ、一日5分間のエコタイムをとり、記入していくものだ。

●みんなの家から「地球」の収支を考える

エコロジーのエコは、ギリシア語で「みんなの家」を意味する「オイコス」が語源。私たちが暮らしのどんな時に環境に影響を与えているのか、そして「みんなの家=地球」を守るためにどこを見直して行けばいいのか、これからのライフスタイルを見直すきっかけづくりとなっている。

《お問い合わせ　☎019(687)1321　いわて生活協同組合》

寄稿

「私の暮らし方 私のケチケチライフ」

木村明美
盛岡市津志田12-19-18

我が家の水道使用量は3人家族で1ケ月平均12～15立方メートル、金額にして3,300～3,500円程度に保たれている。電気はこまめに消灯、点灯するくらいしか努力できないが、家のほとんどの照明器具は蛍光灯で、あまり電力を消費しない。(ただし、子供が成長して、受験期に一人部屋にこもる時期は電気の消費量が多くなった。) 電気料金の領収書兼請求書には前年同月の消費電力が記載されているので、出きる限りそれを超えないようにしている。

昨年の1月にパソコンと電気ポットを購入したところ、1ケ月に100KWHも多くなったので、電気ポットにタイマーをつけ、家族が不在の時や就寝時にはスイッチが入らないようにしたなら、幾分消費量が抑えられた。今年の消費電力が一番少ないのは6月で251KWH。(最大は1月の488KWH)

私は結婚以来、家計を記録し、光熱費の節約をしてきた。また、水は風呂の残り湯を洗濯の本洗いに使い、時にはバケツリレーで洗車もした。夏場には水温を下げ植木にかけたりもする。何度かトイレを洗い流すのにも試みたがいくら注意しても床に水がこぼれ、うまくいかない。(安い三角バケツや風呂からトイレなどに通じるポンプがあったならと思う。)

ゴミの分別も個人でできる資源節約と思い、けっこう努力している。古新聞、古雑誌を子供会の回収に出すのはもちろんのこと、スーパーのレジ袋も繰り返し利用したり、自前の袋をもって買い物にいったりする。牛乳パックやトレイ、空き缶、ビン、ペットボトルなどを分別し、指定の場所に持参するのも日常化している。頂物の包装紙、菓子、アイスのあき箱も丁寧にたたんで資源ゴミに出す。

私は、特別のことをしているとは思っていないし、自分のしていることを家族に強要したこともないけれど、私が何日か家を空ける時、家族は洗濯に風呂の残り湯を使ったり、冷めた湯を植木の水やりに活用している様子だ。東京で独り暮らしをしている娘は冬でも暖房は炬燵だけとか、夏でもできるだけエアコンをつけないようにしているとかいっている。(見ていない様でしっかり見られている。)

環境のことや家庭の光熱費について、地域のボランティアの人たちにアンケートをとったことがある。調査に協力してくれた半分の人は自分の家の光熱費の実態をよくつかんでいない人が多く、節約を心がける人とそうでない人とでは消費量で2～5倍くらいの差があった。

また、新聞に折り込んであるチラシや共同購入チラシについても、目を通した後、どうしているかアンケートをとったところ、回答のあった800人中2割の人は可燃ゴミに出していることが分かった。(その後の地域の話し合いではチラシ、包装紙も資源ゴミとして出そうと呼びかけた。)

さらに、別の会で県内から集まった人たちに1ケ月の可燃ゴミの量を測定してもらったところ、可燃ゴミに残飯を混入するかどうかで約1kgの差が出た。回収された資源ゴミにしても大勢の子供達、老人、ボランティアのお母さん達の努力が最後まで生かされ、リサイクルされているかどうか本当は心配している。

私は、常に環境問題は、自分の足元にあると考え、「工夫し知恵を生かす」生活を心がけている。

第三回「愛ランド　いわて」県民運動大会開催

平成9年10月30日（木）、二戸市民文化会館において、当協議会主催による第3回県民運動大会を開催しました。基調講演や実践発表、アトラクションの披露などをいただいた方々は、次のとおりです。

【活動実践発表】
「住民総参加の花のまちづくり」
宮崎県綾町教育委員会
社会教育課長　森山　喜代香さん

【基調講演】
「心の泉を求めて～あなたの
まちから感動の風を～」
作詩・作曲家　中村　泰士さん

【活動実践発表】
「宇漢米伝説」
軽米町　創作太鼓の会
「座・宇漢米」の皆さん

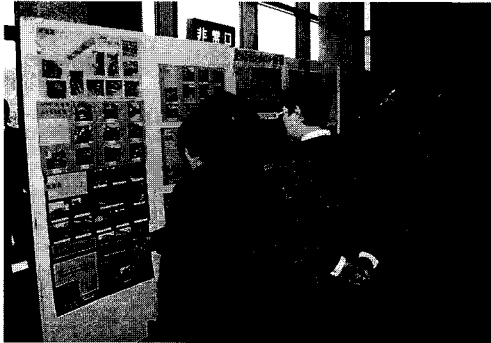
【アトラクション】
「上米沢鹿踊り」
二戸市　上米沢鹿踊り
保存会の皆さん

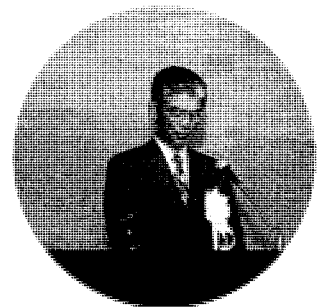
また、県民運動の推進に大きな功績のあった団体を「IWATEふるさとづくり賞」として、また、各地で花のあるまちづくりに取り組んでおられる方々を「第12回岩手県花いっぱいコンクール」入賞者として、表彰いたしました。

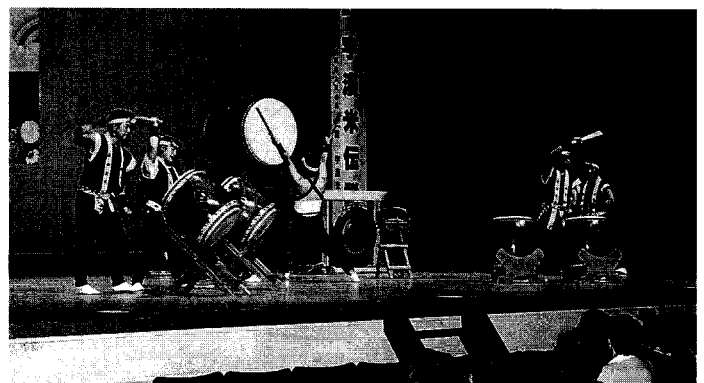
なお、花いっぱいコンクールに入賞した花壇の写真については、JR東日本のご協力を得て、昨年12月11日から24日まで、盛岡駅1階のコンコースに展示させていただきました。

【IWATEふるさとづくり賞】
〔ふるさとづくり賞〕
◎花巻市手をつなぐ親の会
障害者の自立に向けた活動の場として、福祉作業所（農場）や売店を開設

〔ふるさとづくり奨励賞〕
◎釜石おかあさん人形劇
「あすなろキャラバン」幼稚園や小学校、福祉施設等で、人形劇の出前講演を実施
◎金田一友愛活動推進協議会
独居老人や虚弱者宅を訪問するど、老人が安心して暮らせる地域づくりを実施
◎宮古市
「わんぱく自然教室」を開設し、豊かでたくましく行動できる子供を育成

中村泰士さんによる基調講演▶

▲花いっぱいコンクール入賞花壇展

▲表　彰

▲活動実践発表
宮崎県綾町
森山喜代香さん

▲アトラクション「上米沢鹿踊り」

▲活動実践発表「宇漢伝説」

「愛ランドいわて こどもカルタ」を作成

この度、「愛ランドいわて　こどもカルタ」をつくりました。

以前に県内の小学校の生徒さん方から募集した県民運動推進のための標語を使って、実際に子供達が遊べるカルタにしてみたものです。

県民運動大会に参加された方々に記念品として配布しましたが、まだ若干残部がありますので、ご希望の方はご連絡ください。

◎連絡先・盛岡市内丸10の1　岩手県生活環境部　総務生活課内「愛ランド　いわて」
県民運動協議会　☎019（651）3111

海で働く両親の姿を自分の手でカレンダーに…

釜石市立尾崎小学校

問い合わせ先／釜石市平田☎0193(26)5131

太平洋を望む漁港の町、釜石市内にある尾崎小学校（千葉茂生校長、児童数37名）5、6年生が、毎年恒例の学校行事のひとつとして、海で働く漁師を題材に、版画カレンダーづくりに取り組んでいる。児童の父母の大半は漁業に従事。この「海の仕事・版画カレンダー」をめくると、刺し網、イルカの突きん棒漁などの、両親の月ごとの仕事が一目でわかるようになっている。

版画は、船上や漁港で作業にあたる漁師の姿が題材。今年で13回目の製作となる。毎年違う絵柄だから、その図案選びがとくに難しい。漁師の表情、手足の動きをクローズアップする場合、漁の作業が分からないと描けないからだ。だから原画を描くために、家族や地元の漁師を毎回、丹念に観察することになる。

汗をかいた額、太いロープを握る力強い手、海を見つめる真剣なまなざし。子供たちの目に映った、漁師のありのままの姿が版画になって、たくましく表現されていく。

印刷は赤、青、黒、緑色の4色刷り。休日と平日、月のテーマなどで色を使い分ける。きれいに仕上げるにはちょっとしたコツが必要。各教室には、刷り上がったカレンダーが次々に並べられ、その後綴じ込み作業に入る。自分たちの手掛けたものが、どんどん形になっていく作業は楽しい。それを毎年皆が喜んでくれ、今年も届くのを待っていることも知っているので、余計楽しい。今年も上出来の仕上がりとなっている。

カレンダー作りは、毎年11月頃から5・6年生の児童の手で行われている。1月「刺し網」、5月「がぜ（ウニ）採り」、7月「イカ釣り」、11月「アワビ採り」、12月「ナマコ突き」など、月ごとにその時期の作業を題材にしている。表紙を含めて児

童一人ひとりが1カ月を担当するため、2、8、11月をそれぞれ上旬と下旬に分けるなど、変則型のカレンダーになっているのもユニークだ。

カレンダーは毎年100部つくり、全校各教室の他、地元の漁協やPTA、教育委員会などにも配布している。「尾崎白浜の漁業の移り変わりを知る資料としても大変貴重なもの」と、好評である。

両親の仕事にふれ、釜石を知る

尾崎小学校では、学校挙げてワカメ収穫の体験学習にも取り組んでいる。だから、ワカメ漁は描きやすい図案だ。しかし、原画を描くのに分からない漁も、ふだん自分たちが学校にいっている間に働いている両親の姿のひとつひとつとして絵にしていくうちに、理解し、海の仕事の大変な苦労も感じるという。

漁師の仕事を子供たちは誇りにし、それは釜石を誇りに思う気持ちになる。尾崎小ならではのこの行事は、未来につながる子供たちの見事な仕事の表現といえよう。

ほんだ ほんだ イワテ

……新しい生活文化の創造は地域から……

東京都港区
グラフィック アーティスト
山口 エミ子

「岩手においで。」という、岩手に居ついてしまった友人に誘われるまま、はじめて行ったのは、7年ほど前。

友人に紹介されたのは、岩手の若き起業家といえる人達ばかりでした。おしゃべり好き、冗談好き、バカ騒ぎ好きのメンメン…と思ったのは一面的なもので、実はかなりの反骨精神を持ち合わせているなと直感したのですがどうでしょうか。思えば私の岩手行きは、ここからスタートしたのでした。その後、さまざまなところで活躍されている人たちを知るにつれ、印象に残ったのは、彼等、彼女達が自分たちが立っている地面に近いところで活躍し、自分の言葉を持っているということです。つまり、地域と生活と仕事が密接につながったところで、主体的に生きているということでした。

岩手という地域を踏まえて、独自の哲学を探り出そうとする試みは、日本のなかで待たれていたことではないでしょうか。

数年前、私が参加しているグラフィックアートチームは、岩手遠野の農業人、宮城の漁師を、新しい生活文化の創造者としてとらえ、都市に住む私たち三者によるコラボレーションを東京の出版社のギャラリーで開催したのですが、予想以上の反応に驚きました。

その大きな要因として、地域や自然をただ遠くから眺めるのではなく、自然を背景にした生活の営みそのものが、説得力をもって都市生活者の前に出現したということだと思います。

京都や奈良など古来の様式美は、日本の大事な遺産ですが、気候条件を異にしたそれぞれの地域で生まれ、育てられた生活の営みからあらわれてきた精神文化に、ひとつの美を感じます。

世の中は今、転換期にあり、もう一度自分のまわり「日常」というものを捉え直そうとする人たちが増えています。とかく、私たち日本人は、個の確立ができにくく、どこか主体的にやろうというところが弱いといわれていますが、それは自分達が暮らしている環境全体がよく見えないために、しっかり地面に立つことができないのではないかと考えたりします。

偉大な思想は、厳しい自然条件の地から登場するといわれています。岩手という深く大きく可能性を秘めた土地。地域の独自性を抱えながら、逆手にとったり従ったりして新しい生活文化を生み出そうとするバイタリティは、岩手人のなかにそういう遺伝子があるのかもしれません。自分には何が出来るかという問い直しをするきっかけをつくってくれた岩手に増々魅かれています。

Look Person

るっくぱあそん

地球環境は一般に知られているよりはるかに深刻。
でも、チャンスはある。
多くの人が事実に気づき、できることから始めること――。
その手段としてジョールさんは日本縦断2000㎞の旅を実行した。

写真中央：ジョール クレンツさん

ジョール・クレンツさん（水沢市）

カナダ・オタワ市出身、28歳。
大学では地理学を専攻。
平成6年から軽米町で英語指導助手。平成9年8月から2カ月をかけ日本を縦断。
各地で環境問題に取り組む団体と交流しながら、環境保護を訴えている。

連絡先 ☎0197-23-5588（水沢学究内）

見渡せば道路には、タバコの吸い殻やジュースの空き缶。目に見えないところではオゾン層の破壊や、ダイオキシンによる人体への影響……。現在、岩手が、日本が、そして地球全体が大きく抱えているのが環境の問題だ。

私たちが住む地球を今こそ大切に守ろうと、ジョールさんが環境保護のためにサイクリングキャンペーンを発案したのは、一昨年。福島県で英語指導をしているバーバラ・アレンさん、ジェイソン・イーデスさんと、グループ「エコシング」を結成し、日本縦断の旅に出ようとプランを練った。

それから一年後。3人は指導助手の仕事を終え、8月1日、自転車で北海道稚内市を出発。日本海側を南下し、四国・九州を経て、屋久島にゴールイン。二千数百キロを走破した。この間、富山県氷見市の海岸清掃をはじめ、全国各地での環境美化活動に参加し、地元民との座談会、イベントなどで精力的に交流を深めた。

「川が工場廃水で汚染されれば、地元の人は元に戻そうとするでしょう。その意識をさらに下流、海、地球へと僕は広げたい」。

環境問題に関心の高かった父親の影響を受け、ジョールさんはこれまでカナダや、アメリカで、同様のキャンペーンを行ってきた。もちろんこれからも運動を続けていくつもりだし、将来は母国で指圧の勉強もしたいと考えているが、「私は岩手の子ども達の笑顔と自然の豊かさがとても好きなのでしばらくは帰国せずに英語の指導をしていくつもり。」とのことである。

ますます充実 岩手の空

花巻 ⇔ 札幌 名古屋 大阪 福岡 沖縄

札幌
花巻
名古屋
大阪
福岡
那覇

●ご予約・お問い合せは●
盛岡地区予約センター
019-654-6661

第12回 岩手県花いっぱいコンクール

＊＊入賞花壇＊＊

【職場花壇の部】
＊最優秀賞＊ 胆沢町文化創造センター（胆沢町）

【シンボルマーク花壇の部】
＊最優秀賞＊ 払田公民館（花泉町）

【ファミリー花壇の部】
＊最優秀賞＊ 千葉 昭雄（千厩町）

【学校花壇の部】 ＊最優秀賞＊ 江刺市立田原小学校（江刺市）

編集発行人「愛ランド いわて」県民運動協議会 会長 石井 富士男
盛岡市内丸十一－一 岩手県公聴広報課内 電話（[illegible]）[illegible]番